

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022年 月 日
- 事業名 : 被災者の心の健康とコミュニティを守る事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人ふくしま百年基金

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
福島県において、被災者の心の健康を強化するための活動（見守り・心のケア・相談・コミュニティ形成等）を行なう実行団体が選定される。	選定された実行団体の数（定量）と幅（定性：様々なジャンル）	数：4 団体 幅：4 つの様々なジャンルの団体	2021 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年 4 月初回公募でコースター、いわき放射能市民測定室（たらちね）、7 月第 2 次公募で Teco、ふくしまこども食堂ネットワークの計 4 団体が選定。 ・同年 10 月に上記 4 団体と資金提供契約締結、事業開始された。 （選定数：4 団体）	2

<p>福島県において、選定された実行団体間あるいは実行団体と外部ステークホルダー（企業・行政等）との具体的な事業連携もしくはネットワークが形成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形成された事業連携もしくはネットワークの数 ・実行団体に興味を持った外部ステークホルダーの数 	<p>事業連携等：4 事例 外部ステークホルダー：のべ 10 団体</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体とも事業推進中であり、日常活動、イベントを実施する中で外部ステークホルダーとの関係が構築されて来ている。 ・具体的には復興公営住宅住民支援をテーマとする Teco、コースターは地域の行政、社協、民ぶく等との関係強化、連携がなされている。 ・又、こども食堂は本年 9 月にいわき市と共催でこども食堂立上げ講座を開催したが、来年度も共催を継続する等行政との関係に於いて大きな成果が上がって来ている。 <p>（事業連携等：3 事例）</p>	<p>2</p>
<p>福島県において、選定された実行団体による被災者・避難者の置かれた状態に関する調査が実行される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実行された調査の数 ・実行された調査の網羅性 	<p>調査数：4 事例 網羅性：被災者・避難者の 50%相当</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Teco、コースターの 2 団体は復興公営住宅全戸訪問調査を活動目標に掲げている。現状 Teco は全 16 団地の内 10 団地程度とコンタクトが出来ており住民アンケート調査の共有がなされた。コースターは作成中の段階。 ・又、こども食堂は浜通り地域のこども食堂（開設、準備中）調査リストを作成。 ・何れも新たな試みであり今後のモデルケースになる得る可能性あり、更に精度を高め、資料としての価値を上げるべく支援の方針。 <p>（調査数：3 事例）</p>	<p>2</p>

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
福島県において、「災害ケースマネジメント」の実施体制や手法の検討が進む。	実施体制・手法の確立	確立されている	2024年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・Teco、コースターの2団体は復興公営住宅全戸訪問調査を活動目標に掲げており、住民への調査、聞き取り作業中である。 ・今後、アンケート結果分析、仮説の設定、それらをベースに関係者会議で具体的な支援内容、妥当性を精査する予定となる。 ・こども食堂も拠点設立活動を通して地域性、特殊性を把握し具体的な福島モデルの確立を目指している。 	3
福島県において、選定された実行団体への定期的かつ効果的な伴走支援が実施される。	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走支援の実施回数 ・伴走支援に伴う実行団体の変化（ガバナンス・コンプライアンス体制の整備、専従人員の確保、休眠預金事業以外の事業の発展、ファンディングなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施回数：36回（月1回） ・実行団体の変化：選定された実行団体ごとに目標状態を設定 	2024年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年10月各実行団体と資金提供契約締結、本年より月次MTGが開始されている。 ・事業進捗状況は定型フォームで報告を受けている。又、4月よりは月次決算報告も定期的実施されている。 ・伴走支援としては、母子のメンタルケアの関連で不登校問題への対応検討中のたらちねに対して、期間中専門家によるセミナーを全3回企画、実施した。 ・又、2月の復興公営住宅問題に関する神戸の事案勉強会に続き、7月には4団体集合しての交流会を実施し各団体の課題の共有と連携強化を図っている。 （月次会議実施回数：22年4月～8月の5か月間：4団体×5か月＝計20回） 	2

<p>福島県において、選定された実行団体の情報発信等を目的とした事業報告会が開催される。</p>	<p>・事業報告会の開催回数 ・事業報告会への参加人数 ・実行団体に関心を持った参加者の数</p>	<p>・開催回数：3回(年1回) ・参加人数：のべ150名 ・関心を持った参加者数：のべ100名</p>	<p>2024年3月</p>	<p>・事業期間3年の中間点（実際には契約締結より10か月経過）となるが、現在各団体の事業が本格化する段階である。 ・従い、今後の活動、及び、その結果を通して時期を図り、事業完了迄に価値のある事業報告会を開催出来る事を期待している。 (開催回数：○回、参加人数：○人)</p>	<p>2</p>
--	---	--	----------------	--	----------

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
<p>A：変更項目</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値</p>
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
<p>リアルでの会議、対面での活動が制限される環境の下、オンラインでのWEB会議を前提に各団体、JANPIA側との連絡、交渉、調整に努めた。又、事務所内においては、マスクの着用、毎日の手指の消毒、三密の回避、定期的な換気等の実施等の基本的な感染対策を励行した。又、コロナ感染拡大の狭間に実施されたリアルの交流会等では使用する会場のコロナ対策を遵守、ルールに準じた活動を心掛けた。</p>

6. 実行団体の進捗に関する報告

当初の予定より若干遅れ昨年 10 月の資金提供契約締結、事業開始となった。又、コロナ禍の影響も大きく、対面での活動の制限を受けた事より、実行団体の中で特に現状調査、アンケート、インタビューの実施を活動開始の前提としていた団体は初動が遅れた状況にあるが、この様な難しい環境下でもコロナ対策をベースに可能な範囲での調査活動、イベントの開催等一定の成果を上げる事が出来ている。但し、支援を受ける側にもコロナに対する懸念、積極的に外部とつながる事に対するネガティブな感情等もあり、当初の活動内容、アウトリーチを図る対象への修正、改善等が一部必要になって来ている状況もある。今後各団体とも協議の上、当初の計画の達成に向け、一刻も早く本格活動を開始出来る状況を得る為、資金分配団体として協力出来る点については積極的に関与して行く方針である。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

- ・7月25日郡山市で実施された4団体交流会の様相を当団体FACEBOOKにて発信

[https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__\[0\]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-](https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__[0]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R)

[oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R](https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__[0]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R)

- ・8月16日郡山市で実施されたNPO法人コースターにより実施された夏祭りの報道内容を当団体FACEBOOKにて発信

[https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__\[0\]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-](https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__[0]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R)

[oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R](https://www.facebook.com/hyakunenkin/posts/1757013484660302?__cft__[0]=AZXKC9nXvYaCSxHS2KP-GFASLzGhaTK53fnW0zRY7AOhgycFE3ZHM8RG2F6JYifLvcIN8J8k0jaOAZIHSD5g9hdyaBlp1GlcKn-cohEdMeuvBQo9aVSZedphUz00h9LrA91pwC1dlskOGCCKi-oiskotnjFR7cKMIVjLBF6Ydf93Ay0Bh1xPSf5TeKjOifJvLOMk4bzRUMSsz2W7nvmsGvcn&__tn__=%2CO%2CP-R)

2.広報制作物等

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全般	鈴木祐司	副理事長
内部	全般	奥山有二	担当 P.O.
外部	全般	岩崎努	日本ファンドレイジング協会、社会的インパクトセンター

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える 変化の主体	指標	目標値	達成時 期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>実行団体が支援活動を実施する人々、及び、福島県の被災者、支援を必要とする人々</p>	<p>福島県において、被災者の心の健康を強化するための活動（見守り・心のケア・相談・コミュニティ形成等）の機会が増加する。</p> <p>"①実行団体の支援対象者が支援者と接する機会数（定量）</p>	<p>"実態の把握が進むと共に、</p> <p>①実行団体の支援対象者が支援者と接する機会数が30%増える</p> <p>②アクセスできる機会について、（回数、時間：定量）が</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<p>・全 4 団体の 2022 年 8 月末迄の支援者に対する事業活動の間集計結果、頻度（件数、参加人数など）の合計は下記の通りとなる。</p> <p>コースター：（件数 96 件、人数 - 人）</p> <p>たらちね：（件数 77 件、人数 521 人）</p> <p>Teco：（件数 50 件、人数 476 人）</p> <p>こども食堂：（件数 18 件、人数 - 人）</p> <p>合計：（件数 241 件、人数 997 人）</p>

	②被災者が各活動にアクセスできる機会 (回数、時間：定量) (手段、テーマ、内容等：定性) "	30%増え、(手段、テーマ、内容等：定性)の質や多様性が向上している"		・各団体の活動内容は異なり指標として件数、人数を片方、或いは両方取る等単純集計出来るものでもないが、支援者側、行政、関連団体との接触頻度は増加しており、何も無いところから開始した事業である事を考慮するとその意味は大きい。又、コースターによる花見、夏祭り等、及び、こども食堂によるセミナー等上記の集計値には反映されない各イベント・企画への参加者を含めればその影響は更に大きくなる。今後各団体の事業活動が本格化し、更に成果が上がる事を期待している。
福島県に於いて復興支援・被災者支援にあたる NPO 等民間非営利団体	福島県において、復興支援・被災者支援にあたる NPO 等民間非営利団体の連携・ネットワーク化が促進される。 ①実行団体が連携している NPO 等民間非営利団体の数 ②実行団体が他団体と連携・協働して対応した活動の数	実態の把握が進むと共に、 ①連携している NPO 等民間非営利団体の数が 30%増加する ②活動数が 30%増加する	2024 年 3 月	・4 団体の中でも、コースター、Teco は対象地域は異なるが、共に復興公営住宅住民への支援を目的としており、事業の重なりは大きい。7 月の交流会により両団体の連携の機運が生まれ、今後の住民向けイベントの共同開催等が検討されているのは良い動きである。 ・周辺の NPO 団体との連携、ネットワークの具体的な例はイベントの開催等行政、他団体、及び高校・大学、看護学校等ボランティア先との一時的な協力関係に留まり、恒久的な連携の例は未だ上げられないが、特に子供食堂の開催に於ける協力等今後の活動を通して実現する可能性は高い。各団体 HP での発信、報告会の開催等を通して、その様な環境作りをするのも一案であり、我々としてもその面での支援の強化も考えたい。

<p>福島県の被災者、避難者、支援を必要とする人々</p>	<p>福島県において、復興支援・被災者支援にあたる NPO 等民間非営利団体によって見守り・アウトリーチすべき被災者・避難者の全容把握が進む。</p> <p>自立や十分な再建ができていないと思われる支援対象者の数と現状・課題の把握</p>	<p>実行団体の支援対象者を調査し、全体としておおよその割合を割り出すことができる状態になる</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Teco、コースターの 2 団体は復興公営住宅全戸訪問調査を活動目標に掲げている。現状 Teco は全 16 団地の内 10 団地程度とコンタクトが出来ており住民アンケート調査の共有がなされた。コースターは作成中の段階。 ・ 又、こども食堂は浜通り地域のこども食堂（開設、準備中）調査リストを作成。たらちねは原発事故被害の影響を除染作業者の健康診断、地域の子ども達への健康手帳の配布により見守る活動を実施している。 ・ これらの試みと、その結果の集積、分析により現状の把握、今後の見通し等の指針となるべきデータが作成され、結果として福島県に於ける被災者、避難者へのアウトリーチがし易くなる環境が作られる事を期待する。 ・ 我々としては、毎月の団体との月次面談での進捗状況確認、及び問題点の共有、解決策の模索により、活動の効果と成果の向上を図りたい。
-------------------------------	---	--	-----------------------	---

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>実行団体が活動する地域において、「災害ケースマネジメント」の体制が整備・実行され、内容が充実する。</p> <p>①災害ケースマネジメントの実施回数（定量）</p> <p>②同上の参加数（支援者・団体・機関）（定量／定性）</p> <p>③同上で取り上げたケースの内容の充実（定性）</p>	<p>①実行団体の支援対象者の10%</p> <p>②行政や社協を含めた多様な支援者の参加</p> <p>③ケースマネジメント参加支援者による支援の実行、それによる効果（アンケート）</p>	<p>2024年3月</p>	<p>・実行団体により事業開始が遅れた事、コロナ禍の影響を受けた事より、当初の予定より時間を要しているが、漸く被災者、要支援者へのコンタクトが出来き、アンケート、聞き取り等の事前調査が進んで来ている。</p> <p>・今後調査結果をベースに行政、社協、専門家との関係者会議を通して具体的支援内容、妥当性等の精査を含め、その情報を関係者で共有し、今後の活動に生かして行く。</p> <p>・伴走支援として他の災害地域における災害ケースマネジメントの先例、成功・失敗事例等の参考情報収集、現地視察等も有効であれば企画、実施し、全体的な作業のスピードアップを図りたい。</p>
<p>福島県において、実行団体の支援力が増強される。</p> <p>①支援量（人数×稼働時間）（定量）</p> <p>②質の向上（定性）</p>	<p>支援キャパシティ（各活動の回数の増加、稼働時間の増加、稼働人数の増加、質の向上）が強化される</p>	<p>2024年3月</p>	<p>・4団体が事業活動中の福島の被災者、避難者を支援する運動を資金的、非資金的両面より支援する事により、運動の効率化、有効化を図る。</p> <p>・並行して各団体への適切な伴走支援により、団体の組織、体制強化に寄与する事により、団体の存続と活動の継続、強化を目指す。</p> <p>・上記の活動の広報、HPでの発信、報告会等の開催により、周辺の団体へより良い影響を与え、結果的に福島県に於ける民間団体の活動の質・量の向上に貢献する。</p>

<p>福島県において、実行団体の情報発信力が強化される。対峙している課題や支援内容の発信が進み、企業連携が生まれる。</p> <p>①企業連携の数（定量）</p>	<p>企業連携数が 30%増加する。</p>	<p>2024 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 団体とも事業報告以外にも、団体 HP、Facebook、SNS 等で活動状況を積極的に発信して来ている。又、各種イベントの開催等について新聞、TV 等のマスコミも積極的に取り上げている。 ・ これらの広報活動を強化する事により、各団体の事業を周辺、地域、関係者に広く周知し、良い影響を与えて行く事。 ・ 又、我々としても財団独自の活動として、今後 CSR 活動、ESG 投資、SDGs 活動に積極的な地域の企業との出会い、関係強化を目指し、民間公益活動への理解、財政的支援、企業連携への発展へ結び付ける活動を積極的に行う方針。
---	------------------------	-------------------	---



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>・ もたらされた変化は事業の実施に起因するものか。</p>	<p>・ 事業の実施に伴い周囲に変化がもたらされている。</p>	<p>・ 公営復興住宅住民支援に於いては行政、社協などとの関係に於いて変化の兆しが表れて来ている。又、子供食堂立上げ講座等子供食堂立上げ希望者、又、外部よりサポートしたい人々等周囲に影響を及ぼす事例も出始めて来ている。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>各実行団体の現時点での評価は夫々であるが、予想を上回って達成 x 1 団体、おおむね達成 x 2 団体と 3/4 団体は現時点で短期アウトカムの達成を視野に捉えている。残る 1 団体は当初の指標、アウトカムの選定に問題があった為、この機会に事業計画を含めた計画の変更に着手する事を決定した。今後約 1 年半の事業期間の伴走支援を通して、4 団体ともに当初のアウトカム達成に向け適宜協力して当初の計画を確認して進めて行く事は十分可能と考えている。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<p>活動は計画どおりに実施されているか。</p> <p>事業目標の達成見込みはあるか（目標値との比較）。</p>	<p>計画どおりに実施されている。</p> <p>達成の見込みはある。</p>	<p>採択スケジュールの遅れ、それに関連した資金提供契約締結、事業開始の遅れの問題、及び、その期間感染増大したコロナ禍に於ける各種事業展開、交流の制限等の困難な現実、問題に直面したものの、過去 6 か月程度積極的に展開した各団体の事業進捗は漸く当初の計画をキャッチアップする所まで来ている。今後更に活動強化して行く事により事業達成は可能な状況に近づいて来ている。</p>

<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか。</p> <p>事業を通して新たなアイデアが生まれたか。</p> <p>今後留意していかなければならないことは何か。</p>	<p>見直しが行われている。</p> <p>新たなアイデアは生まれている。</p> <p>各団体との情報交換を通じた問題の共有と支援の実施</p>	<p>中間評価報告書作成で明らかになった NPO コースターの事業計画、各種指標の変更等事業の進捗状況において見直しが行われている。</p> <p>又、親子のメンタルケアを事業内容に置いた NPO たらちねは施設に来る親子との関係を深める中で不登校問題への関心を深め、本事業の枠内で不登校問題への理解の為に専門家を招いての勉強会を希望するに至り本団体が伴走支援として勉強会の企画、実施を担っている。</p> <p>各団体とは月次 MTG で活動の進捗状況の確認と、問題点の共有、解決策の検討を定期的に進めている。各団体へはその時点での事業進捗状況の客観評価を行い、各団体は自分達の現在地の確認と今後の注力事項を把握出来る。今後も伴走支援の中心として月次 MTG を継続、推進して行く事が重要と思われる。</p>
<p>組織基盤強化・環境整備</p>	<p>人材（事業を効率的に実施する、あるいは適宜評価できる）は育っているか。</p> <p>事業の運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決定過程の整理など）に問題はないか。</p> <p>組織体制・事業体制に変化はあったか。</p>	<p>人材は育っている。</p> <p>事業の運営管理体制に問題はない。</p> <p>組織体制・事業体制に変化はあった。</p>	<p>当団体、各事業団体とも本件事業を開始、推進するに辺り、人材の確保、育成に着手し、現在に至っている。これにより、現時点では事業の運営管理体制、組織体制等について特に問題はみられない。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・助成事業の受益者側の変化（復興公営住宅住民に対する実行団体のコンタクト、支援の打診等により、支援を必要としている人々、その支援の内容などが徐々に明らかになって来た、その中には実行団体の仮説程支援を必要としない方々も含まれている事など）
- ・被災者、避難者を支援する行政、社協、民間団体等既存の組織、団体の変化（実行団体が地域で活動を継続、強化するに際して、その地域を管轄する行政組織、人員、及び、社協等の中に活動に協力的である組織と非協力的な組織が各々存在する事も明らかになって来た。その中でどうすれば今後協力を引き出す事が出来るかを解明するのが重要になっている。）
- ・被災者、避難者の周辺にいる住民、人々の側の変化（浜通り地区の子ども食堂の調査（開設中、準備中の団体の調査など）、及び、食フェス等の啓蒙の為のイベント、子供食堂開設の為のセミナー等の開催を通して、子供食堂不毛の地と見なされた浜通り地区にも、子供食堂開設希望者、開設しない迄も外部より協力したいと考える人々が相当数いる事が明らかになって来ている。）

③ 事前評価時には想定していなかった成果

・本件事業（被災者の心の健康とコミュニティを守る事業）を計画した際には、3.16 東日本大震災よりの復興を考える上で、福島県特殊な事情として、災害関連死の問題が大きな位置を占めていた。事前評価の際にもこの点には注目し、文献、各種行政資料等を参照したが、震災後 11 年を経るに至り、災害関連死は自死、孤独死とも福島県に於いても非常に少なくなった状況である。しかし、これは福島県の復興が進んでいる事を直接表すものでは勿論なく、東日本大震災の影響が災害関連死以外に形を変えて、重くのしかかっている現実がある。これは、未だに続く福島県内外での避難、帰還困難者、進展が遅れる双葉郡 8 町村への住民帰還遅れの問題である。現地で急ピッチで進む駅舎、道路等のインフラの復旧、行政機関等の再開、国際研究機関の招致等が住民の帰還、地域コミュニティの再建に直結して行くかどうか不透明な今、「被災者の心の健康とコミュニティを守る」をテーマに掲げた本件事業の進展にかかる期待は更に大きくなって来ていると思う。



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する 	<p>上述の通り、各実行団体の現時点での短期アウトカム実現の見通しは3/4 団体で視野に入っており、これは今後の活動継続、強化により十分実現が可能な状況にある。残り1 団体については現在事業計画、各種指標の見直しを実施予定であり、これらの作業を通して軌道修正する事により今後成果を上げる事が出来ると確信している。当団体としては今後も伴走支援を継続し、効果的なサポートを適宜提供して行く事を心掛けて行く所存である。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・ 中間評価結果により事業計画等に特に問題のなかった団体に於いては、従来の活動の継続、強化を目指す。又、当団体としても従来通りの伴走支援を継続し、適宜サポートを提供して行く。
- ・ 事業計画、各種指標の変更が必要となった団体に対しては、早急に協議の上、適当な修正案の作成に協力する。又、修正案に基づき事業の軌道修正を図り最終的に成果を上げる事が出来る様協力して事業を進める。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）